

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174200764		
法人名	悠馬エンタープライズ有限会社		
事業所名	グループホームらんらん倶楽部		
所在地	埼玉県児玉郡神川町熊野堂2578		
自己評価作成日	平成22年2月23日	評価結果市町村受理日	平成22年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2年程前から、当ホーム隣接の場所に“らんらん農園”(畑)を設け、季節に応じた野菜の苗植え、収穫を利用者と共に行い、又、地域住民の方々や、家族の方にも、おすそ分けしたりと交流機会も増え、利用者様にとっても良い刺激となっている。認知症の周辺行動の改善にも繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは平屋の2ユニットで、入居者は両ユニットを自由に行き来出来る。広い中庭は日中開放され、ウッドデッキや中庭に出て気分転換が出来る。中庭を利用した行事(餅つき、バーベキュー)や農園活動、又、ボランティアの協力を得ての小旅行等、閉じ込められない生活づくりに力を入れ、地域の方との触れ合いを大切にしている。ホーム内では「ありがとう」の言葉をキャッチフレーズに、入居者と職員の間で言葉を交わし合い、信頼関係を築いている。入居者が安心して暮せるような日常のケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より変わらずに、事業所独自の理念のもと、利用者へのケア・サービスとして実践している。	朝礼時やカンファレンス時に理念の理解を深め、その理念の基で具体的なケアが行われているか管理者は職員と共に振り返り、共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動への参加や、ホーム主催の行事へのご案内等、地域・近隣住民の方々との交流機会を大切にしている。	自治会の一員として地域の清掃活動に入居者と職員が参加したり、自治会の回覧板でホームの行事を案内し、地域住民に参加してもらっている。又、散歩時の挨拶や会話等、日常的に地域の方との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常時、家族や地域の人々からの認知症の介護問題や抱えている悩み・質問は受け付けており、可能な限りの相談援助は行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のテーマ(議題)は、身近なものを取り上げ、参加者が発言しやすいものとしている。ホームで改善出来る事はサービス向上に活かしている。	年1回開催。議題は身近な事(感染症対策等)について取上げ、ホーム側の現状説明や参加者からの意見や要望を聞き、サービス向上に活かしている。外部評価結果は報告しているが、目標達成計画はこれからである。	今後は自己評価や外部評価結果を活用し、課題となった取り組み状況等の報告を交えて話し合い、年に数回開催されることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退所の報告等、定期的に行っている。又、地域包括支援センター主催のケアマネジャー連絡会議に出席し、情報交換を行っている。	管理者は、入退所報告等の定期的な情報交換を行い、連携を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外玄関の扉は開放しているが、中扉は施錠している。中庭に出られるテラスのドアは常時開放している。その他、身体拘束は行っていない。	全職員が身体拘束をしないケアを理解し、実践しているが、職員の目が届きにくい所に玄関がある為、二重扉の内側のみ施錠をしている。しかし、居間から広い中庭に出られるドアは開放され、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修等にも参加し、又、カンファレンスや朝礼時にも虐待について学ぶ機会を設け、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、入所されていた利用者で実際に成年後見制度を利用されていた方がいる。必要に応じ関係者と連携を図り、活用できる対策を講じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回の見学・面談時から契約に至るまでの間、又、契約締結時・解約時には、利用者家族・利用者共に十分な説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書の重要事項説明書に苦情の受付を明記し、利用者及び家族によく説明している。又、家族面会時や普段の生活の中でも意見や要望を伺い、改善・対応に努めている。	入居者からは日常の関わりや会話の中から要望を察し、家族等には面会時に声を掛け要望や意見を聴いている。運営推進会議でも家族から意見や要望を出してもらい、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時や朝礼等で会社の決定事項・方針を伝える機会を設け、それに伴い、意見や提案を発言できる環境を作っている。	職員の入れ替わりが比較的少ない為、お互いに理解し合い、日頃からコミュニケーションがよくとれている。ミーティング時には、ホーム長、管理者共に意見や提案を聞き、それらを話し合って運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務状況・実績・努力は昇給や賞与に反映されている。制度が整っている。又、評価によっては昇格の機会も十分にあり、やりがい・向上心を持って働ける環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修の受講機会やその他研修への参加推進、介護福祉士やケアマネ等の資格取得の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの訪問や見学もあり、互いに情報交換を行っている。又、ケアマネ連絡会議や協力病院主催の講習会にも出席し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時から入所申込・契約締結に至るまでの間、十分にアセスメントを行い、利用者本人・家族からの要望意見の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、十分なアセスメント・面談を行い、家族からのニーズの把握、不安要素の解決に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要としているニーズを見極め、医療・生活の質等、総合的に考慮した上で可能な限りのサービスを必要に応じて提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に対し、人生の先輩として敬意、時には教えて頂くことや学ぶことも多々ある。喜怒哀楽を共にして良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の触れ合う機会(行事等)を設け、面会以外でも交流できる環境を作っている。又、適宜、近況報告を行い、本人にとってよりよい援助を行えるよう協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々のケースを考慮した上で家族の協力も得て、今までの友人との付き合いや面会、馴染みの場所への外出等、関係が途切れないように努めている。	本人のこれまでの生活歴や日常の会話の中から馴染みの方等を把握し、家族の協力のもと、外出や外泊、友人の面会等の関係が継続出来るよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や、利用者同士の相性・人間関係を考慮した上で援助を行っている。又、孤立しないよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後(契約完了後)も適宜、家族・本人からの相談は受け付けており、再入所も可能である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人・家族からアセスメントする他、又、入所に至るまでの間に連携を図っていたケアマネやSWからも事前に情報収集している。入所後も適宜、ニーズの把握に努めている。	日々の関わりの中、声掛けは本人がわかるよう丁寧に行い、言葉や表情、行動から意向の把握に努めている。又、意向の把握が困難な場合は、家族や関係者と、本人の立場に立った話し合いを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメント、その他事前にケアマネやSWからの情報収集で、今までの生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前の情報・入所時のアセスメント・介護を実施していく中で発生するニーズや個々の心身状態を考慮した上で、個々のケースに合った援助を進めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人や家族から、ケアに対しての要望・希望を聴取し、又、サービス担当者会議にて現状で一番必要な援助について討議した上で、介護計画の立案・実践を行っている。	入居者や職員がA棟とB棟を行き来していることから、介護計画や見直しはA棟、B棟の職員全員でカンファレンスを行い、本人や家族の意見、要望も反映しながら現状に合わせ作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の定期的な見直し、又、心身の状態変化に伴い、プランの変更も行っている。その時には、本人・家族・関係者(職員)とも討議している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画に含まれていないケア項目でも本人の希望・状況・家族の要望に対して柔軟な対応・援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防署の協力のもと、防災訓練・救命講習を行い、又、地域の小中学生の体験学習の受け入れもしている。各機関との連携を図り支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに協力医療機関である主治医は存在するが、入所時に本人・家族の希望・要望に合わせた上で、かかりつけ医を決定している。	本人、家族同意の上、ホームの協力医がかかりつけ医として2週間に一度定期的に往診している。協力医にない診療科の受診は、家族と連絡して職員が同行し、受診結果については家族に報告し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中でとらえた気付き・異変・情報は、ホームに勤務している看護職員やかかりつけ医の看護師に連絡・相談し、適切な処置や受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合でも、病状・治療の進捗具合の把握に努め、家族や主治医・医療SW等の関係者と連携を図っている。又、普段からも情報交換や関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、またはその段階に近づいた時に、急変時や重度化した場合、終末期のあり方について、主治医・家族・本人と話し合い、納得のいく対応、方向性を考えている。	ホームとしての指針は示されている。これまでの重度化した方のケア経験を活かし、本人・家族の意向をその都度確認し、同意を得ながら関係者と話し合い、指針を基に納得の行く対応・支援が出来るよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が救命講習にて急変や事故発生時を想定した対応等を学んでいる。又、ホームでも定期的に勉強会を開き、実践力を磨いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回、消防署協力のもと、避難訓練を実施している。又、自治会の会員として避難場所・方法は通常周知されている。	町の消防署の協力により、全職員と入居者で昼間の避難訓練を実施している。消火器等の点検や、使用法等も周知している。スプリンクラーの取り付けも行われる予定である。	今後は夜間を想定した避難訓練の実施、又、近隣住民や運営推進会議でも災害時対策に関する理解を求め、協力体制が築かれることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格、今までの人生で培ってきたもの、誇りやプライバシー含めて、損ねることのないよう気を配っている。	食事の声掛けや、食べこぼしの片付け等をさりげなく行っている。又、会話の中で職員は入居者に対し「ありがとう御座います」の言葉掛けをし、敬意と人格を尊重した対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自発的に表現できる利用者でも、又、困難な利用者に対しても、認知症の度合いに応じてニーズを把握し、自己決定できるように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや状態に合わせた介助を行っており、職員本位とならないよう留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にそって、ヘアカット、カラー、服装を行っている。又、家族の協力の元、本人希望の美容室へ行き、パーマ等行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備やおやつ作りを職員と共に行う他、食器洗い、配膳も手伝って下さっている。又、好みに合わせたメニュー作りも行っており、マンネリ化とならないよう工夫している。	準備や後片付けは声掛けをして、本人の意志で手伝ってもらっている。職員も同じテーブルで会話をしながら食べている。利用者の好みに合わせたセレクトメニューや、天気の良い日には庭でバーベキューを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量・水分量の把握・記録は毎日行っており、不足しないよう個々の疾患・ADL状態に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実践している。見守り、時には一部介助、全介助にて清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツの使用はせず、個々の排泄能力、パターン、介助を必要とする度合いに応じて、その上で自立に向けた援助を行っている。	一人ひとりの生活習慣を大切にしている。排泄パターンを捉え、さりげなく声掛けし、支援している。おむつの方でも日中はトイレで排泄出来るよう二人対応で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の有無、便秘傾向であるかの確認を行い、飲食物の工夫や運動への働きかけは行っている。又、症状に合わせて薬の服用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り個々の希望やタイミングに合わせて入浴ができるよう努めている。	昼間の時間帯に、個々の希望やタイミングに合わせて入浴を支援している。又、拒む方については無理強いせず、声掛けに工夫し、下着の取替えをしている。ゆず湯や菖蒲湯等入浴が楽しみになるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	大まかな就寝時間は決まっているが、本人のペースに合わせている。夕食後すぐに居室に戻る方もいれば、コタツで雑談したり、テレビ観賞されたりと自由である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の用法や用量等の説明書が薬の処方時に薬局より発行され、適宜確認し、把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時に家族・本人より、生活歴、趣味、嗜好品等について傾聴し、個々に合ったレクリエーション、役割、嗜好品を楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には、散歩、ドライブ、畑で野菜の収穫等、野外の活動を取り入れている。又、年2回の日帰り旅行の企画や、家族の協力のもと、本人の希望の場所への外出も行っている。	天候の良い日には、散歩やドライブに出掛けられている。又、普段出掛けられない所(みかん狩り等)へも、2、3名の社協ボランティアの協力を得て、系列施設と合同で、小旅行等の外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関しては、家族の協力、同意のもと、自己管理できる方については所持している。又、本人希望にてその金銭を使って買い物等も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族了承のもと、手紙や電話のやり取りを行っている。又、本人が手紙を書いたり電話が困難な場合は、代弁・代筆にて連絡が取れるよう援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が、居心地の良い空間となるよう、常時、音や空調、換気、室温、照明、清掃などに気を配り、調整を図っている。又、季節に応じた装飾を行っている。	共用空間は吹き抜けで開放感がある。入居者が生活しやすいよう整然とした中にも、生活感を思わせる飾り付けや調度品が置かれている。入居者が混乱しないよう目印等も付けてあり、居心地の良い場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも個々のペースを尊重し、気の合う仲間と団らんを楽しんだり、独りでゆっくりマイペースに過ごしたりと、本人の希望にそった環境づくり、対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、本人や家族と相談し、今まで使用していたものを持ち込んだり、気に入ったものを揃えたりし、本人にとって居心地の良い空間となるよう工夫している。	入居時に家族等と相談し、本人の意向で居室が作られている。すっきりとした作りになっている方、馴染みの物や大切な物を持ち込んでいる方等、その人らしい居心地の良い居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、バリアフリーを考慮した空間づくりを行っている。安全面も確保している。		